

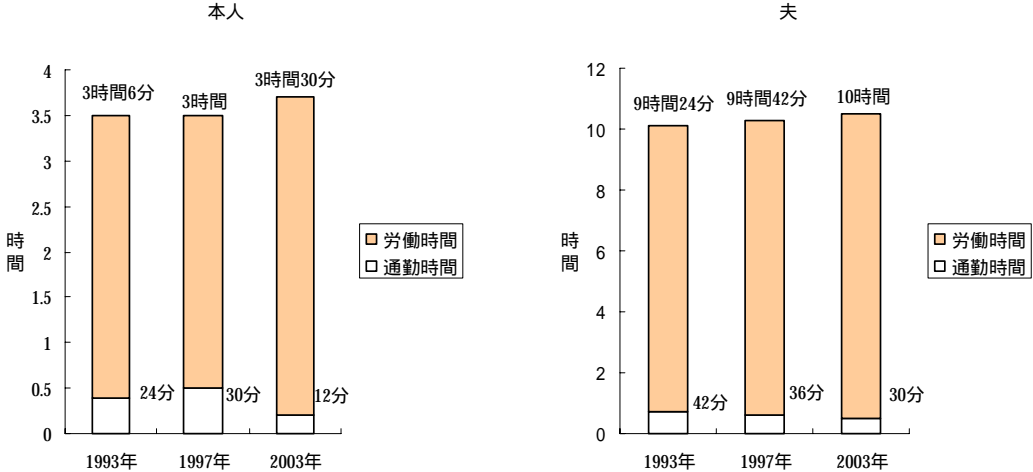
. この11年で、夫・妻ともに、労働時間、家事・育児時間が増大

これまでの11年間に蓄積されたデータを生かして、20歳代半ば(24~27歳)の時の労働時間、家事・育児時間をコーホート比較した(1993年調査(1966~1969年生まれ)、1997年調査(1970~1973年生まれ)、2003年調査(1976~1979年生まれ))。

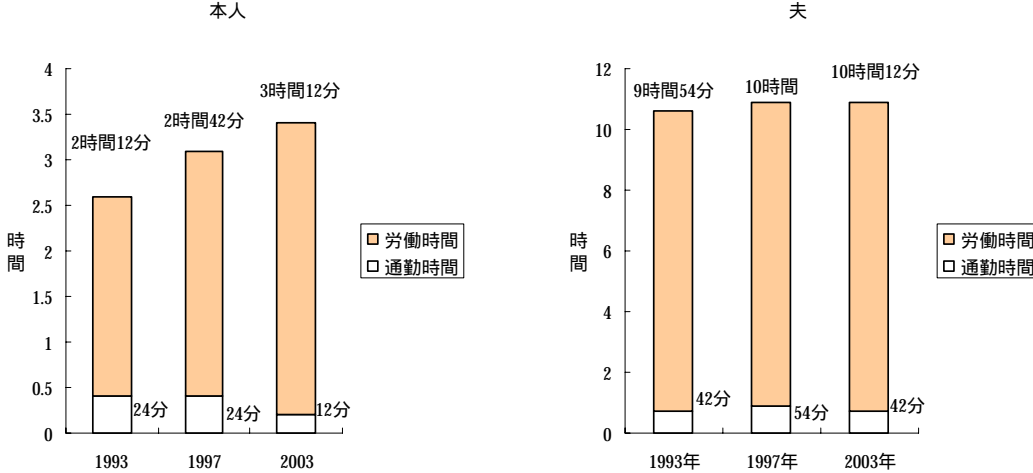
(1) 夫・妻とも労働時間が増大

有配偶者の場合、親と同居している妻の労働時間は、3時間6分(1993年)から3時間30分(2003年)と長くなっている(図表-1)。また、夫の労働時間も、この11年間で36分ほど伸びている。親と別居している妻の労働時間は、2003年調査では3時間12分と(1993年調査と比べると)1時間ほど長くなっている。夫の労働時間の変化は少ないが、もともと労働時間は10時間近くにのぼっていた(図表-2)。

図表 - 1 仕事時間と通勤時間(有配偶(平日)、親と同居)



図表 - 2 仕事時間と通勤時間(有配偶(平日)、親と別居)

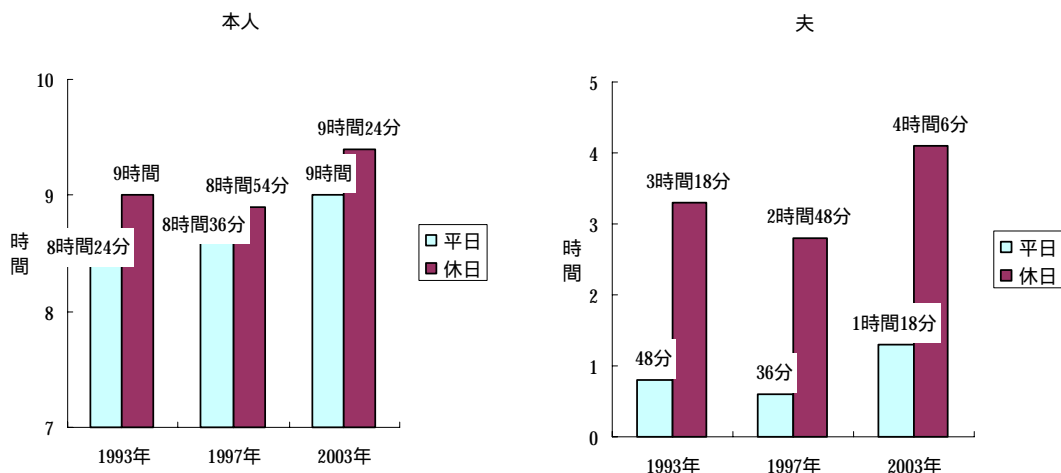


(2) 夫、妻とも家事・育児時間が増大

親と同居している場合、妻の家事・育児時間は、平日では9時間（2003年）、休日では9時間24分（2003年）となり、双方とも1993年時に比べて伸びている（図表 - 3）。平日の夫の家事・育児時間は1時間18分（2003年）、休日では4時間6分（2003年）と、それぞれ11年前と比べて30分、48分長くなっている。親と別居している夫婦の場合、妻の平日の家事・育児時間は減少しているが、休日では増加している。また夫の家事・育児時間は平日も休日ともに、2003年調査でかなり伸びている（図表 - 4）。

20歳代後半の有配偶者の生活時間は、ここ約10年で、夫、妻ともに、親との同別居を問わず、就業時間と家事・育児時間が増大した（「ダブルシフト」）。特にコーホートCでの夫の家事時間の増大がみられるが、これは、家事・育児に理解があり、実行してくれる人が結婚相手として選ばれやすい、あるいは自分自身が家庭に関わりたい男性が結婚を望むことを示している可能性がある。

図表 - 3 家事・育児時間（有配偶、親と同居）



図表 - 4 家事・育児時間（有配偶、親と別居）

